

図書館だより

読書の秋

「～の秋」と言われることは多いのですが、「読書の秋」もまたその一つです。

そもそも「読書の秋」という言葉が、使われるようになった由来をご存知ですか？中国の唐代の文人である韓愈（かんゆ）が残した詩の中に、「燈火（とうか）親しむべし」という一節があります。その意味は、「秋になると涼しさが気持ち良く感じられ、あかり（灯火）で温まるのに適した時期になる」。つまり、秋は灯火の近くに寄っていることが多いので、その光の下で読書をするには、一番適した季節であるということを表現しています。また、秋は気温が14度～16度と脳の活動に最適な温度になるため、読書や勉強に没頭しやすい時期とも言われています。



『アンマーとぼくら』 有川浩：著 講談社

この小説は、かりゆし58の唄『アンマー』（※「お母さん」という意味）を基にして書かれました。生命あふれる大地・沖縄。この大自然が、今まで素直になれずに固まっていた感情を和らげてくれます。親子愛、夫婦愛、ふるさと愛が胸にしみる物語です。やさしい物語とやさしい唄を合わせて聞いてみよう！



『ハリネズミの願い』 トーン・テレヘン：著 長山さき：訳 新潮社

招待状に、「でも来なくても大丈夫です」と書いてしまう臆病で気難しいハリネズミに友達はあるのか？ある日、人付き合いの苦手なハリネズミが家に誰かを招待しようと思いつく。さっそく招待状を書き始めるが、本当に客が来たらどうしようと不安になり、手紙を送る勇気が出ない。こじらせハリネズミはあなたの心にもいるかもしれません。



『NAKUNA』 蒼井ブルー：著 KADOKAWA

Twitter フォロワー数15万人を超える人気フォトグラファターの蒼井ブルーさんの言葉が詰まった本。温かなつぶやきに、クスッと笑えたり、にやにやしたり…。読み終わった後は、じんわり優しい気持ちになれます。自分を信じてやれないとき、自分を愛してやれないとき、手にとってほしい一冊です。



☆読書週間 10月27日～11月9日

読書に適しているこの時期に、本に親しんだり、図書館で読書イベントを楽しんだりして、読書を始めるときかけにしてほしいですね。本を読むことは、物語を楽しむ勉強にもなりますが、それだけではありません。本を読むことで気持ちが軽くなり、勇気づけられることもあります。本は心の栄養剤で、読む人の気持ちに寄り添ってくれるものです。みなさんにとって、とっておきの一冊が見つかるように願っています。



除籍図書は自由にお持ち帰りください！

図書館に登録されている書籍の中で、破損がひどいもの、内容が現在とあまりにも違いすぎるもの、また数冊同じものがあるものの一冊で十分なものに関して、除籍を行っています。今回は、文庫本や新書本だけでなく、文学の単行本も多く除籍することにしました。有名な作家の本もありますが、装丁が古くなり破損しているため、みなさんの手になかなか取られないために廃棄となります。しかし、中身はしっかり読むことができる本です。

除籍された書籍を図書館前に置いてありますので、興味のある方は、自由にお持ちいただいて構いません。

除籍された書籍は、一ヶ月ほどで廃棄処分になります。

もし、取り置きしてほしい本がある場合には、図書館まで申し出てください。図書館で長い間活躍していた本です。その役目を果たしてくれたことに感謝し、これから新しい図書を受け入れていきたいと思っております。



10月の図書館予定

通常開館の時間 9:00～17:00

(変更になる場合もありますので、図書館前の掲示板を確認してください。)



月	火	水	木	金
3 通常開館	4 通常開館	5 通常開館	6 通常開館	7 通常開館
10 祝日(体育の日) 休館	11 通常開館	12 通常開館	13 通常開館	14 通常開館
17 通常開館	18 通常開館	19 通常開館	20 通常開館	21 通常開館
24 通常開館	25 通常開館	26 休館	27 休館	28 通常開館
31 通常開館				